

# やりたいことを見つけよう

## 同窓会 入会式 古谷薫弁護士が激励

さる二月一日、多数の同窓会関係者の参列を得て、平成十九年度同窓会入会式が本校体育館で行われた。最初に辻兵吉同窓会長(昭和十九年卒)から、「世界中に我々の仲間がいるということをお忘れないうでほしい。秋田高校の卒業生だという誇りと自信を持って、充実したいいい人生を歩んでいただきたい。」との歓迎の挨拶があった。

続いて弁護士古谷薫氏(昭和六十二年卒)より新会員に対する激励の言葉があった。氏が本校を卒業してから自分の歩む道を見つけてくるまでの体験を軸にメッセージが語られ、新会員たちは共感しながら聞き入っていた。氏は、早稲田大学一文で様々な夢を持つ人々と出会い、自分は何になりたいのかを考える中で、人の役に立つ仕事である弁護士を目指す決意をし、法学部を受験し直した。そんな氏から送られたメッセージは次のようなものであった。若いうちは何になりたいかが明確でない場合が多いと思うが、大学を経て社会に出て様々な人



と親交を深める中で夢が見つかるはず。夢はいくつあってもよい。二兎を追わなければ二兎は得られない。心の底からこれをやりたいと思うことこそがとても重要であり、その気持ちがあれば必ずとすべきことが見えてくる。そして、秋高で出会った仲間をいつまでも大切にしたい。大きな可能性を秘めて広い世界に旅立とうとする若者たちを力強く暖かく送り出すメッセージであった。

同窓会からの記念品(三菱の文鎮)は、山谷浩二同窓会副会長から、生徒代表渡部健さんに贈呈された。

## 羽城館企画展

### 石井晴子展

十五回目の今年の羽城館特別企画展は、画家の石井晴子氏(昭和三十七年卒)にご協力頂きました。ふるってご鑑賞下さるようご案内致します。

期 日 七月五日～八月二十九日

午前十時～午後四時

〈土・日曜、祝祭日は休館〉

場 所 秋高同窓会館「羽城館」

### 石井晴子展によせて 過去と現在つなぐ 風が吹いている

校長 菊谷 一

毎回好評を博しております羽城館特別企画展が、今年十五回目を迎えました。この企画展は、校史資料館で同窓諸氏の作品に触れることにより、在校生が先輩との絆を深め、母校愛の高揚と感動する豊かな情操を育むことを目的にスタートしたものです。

今回は、主体美術協会会員の画家、石井晴子氏にお願いいたしました。ご快諾いただきましたことに、衷心より感謝申し上げます。

石井氏は、昭和三十六年三月に本校を卒業され東京教育大学教育学部芸術学科絵画専攻に進まれました。卒業後、専門学校や中学校で若者の美

術教育にあたる傍ら、意欲作



「都会の憂鬱 2007」

を毎年女流画家協会展に出品されてきました。やがて本格的に創作活動を展開、毎年のように個展を開催するなど活躍されております。

石井氏の作品のテーマは風、都市、家族。青を基調とした作品が多く、背景に無機質な都市を配し、憂いを秘めた女性たちが子どもや鳥、犬とともに描かれており、過去と現在をつなぐかのように風が吹いています。殺伐とした都会で生きる現代人の生活空間が表現されているのでしょうか。時間軸と空間軸とが交錯しているように見えます。生徒会室新館に展示されている「風の街」と題する作品は、二〇〇六年に石井氏からご惠贈にあずかったものであり、重ねて厚くお礼を申し上げます。また、企画展の準備に当たられた関係各位に深く敬意を表します。